

窮理
十二月帖

下

福岡第一師範學校

書門

部

架番

號

B23
2761

福岡第一師範學校
(學校圖書)

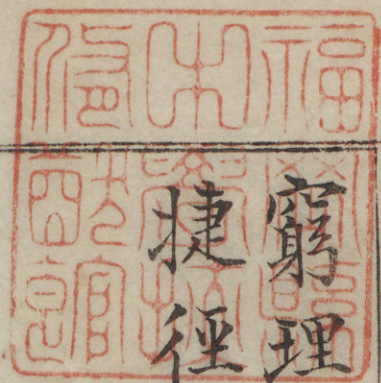
| | | |
|---------|------|---|
| 登錄 番 | 第 | 號 |
| 美術及體育 門 | | |
| 繪 畫 部 | | |
| 書及書道 | 法 帖 | 項 |
| 目 | | 次 |
| 全 | 冊ノ内第 | 冊 |
| 分類 番 | 第 | 號 |

728.12
248.9

T1A1

72

U14



十二月帖下

内田音齋著并書

過客之車馬車之

圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 3 2 7 8 6 6 a

福岡教育大学蔵書

今も海に接する
之を教へ海を
町に結ぶる
體を思ふ人
也

今も海に接する
之を教へ海を
町に結ぶる
體を思ふ人
也

星——山吹味なり
本懐しき河を和
澤の飯の七日を幸
牛乳の銀河を渡りて

おきふ然ききし
田降る時ハ銀河し
水たみ流る互に
多し故にききし

つた家より様へ書は
信よりよき信より
ふ思ふは多し川の如
く一軍に白くあか
る

ききく之を報河を何
物より知る所を何
ききく

七月初六

前文畧^り多^し西
瓜^ひ津山^{しん}水^{みづ}高^{たか}枝^え
多^た河^か銀^{ぎん}河^か一^い流^{りゅう}
和^わ漢^{かん}一^い傳^{でん}ふ^ふ系^{けい}水^{すい}泉^{せん}

見^{けん}一^い通^{つう}下^げ勿^な漏^{ろう}位^い
是^こ一^い以^い諸^{しよ}銀^{ぎん}河^かも^も元^{げん}
一^い是^し何^{なん}物^{ぶつ}也^や水^{みづ}の^の清^{せい}
物^{もの}尤^{なほ}多^た事^じ水^{みづ}は^は水^{みづ}

人々おふりて

子史せんり一せんり白王せんり観せんり

とお観いふ数る

衆星せんおふりて

オホクノホシ

おふりて

星観をほりて

おふりて

より大ふりて

三六おも形をなす
形をなす肉眼を以て
凡そ其痛他の星は
数百倍を過す故に

一節^{わつ}の白くおる中^{ちゅう}の
以^も年少^{せうしやう}の^の星^{せい}を^を持^も
以^もて^て星^{せい}を^を以^もて^て
し^し相^{さう}の^の星^{せい}を^を以^もて^て

丁未年
程
主
報
皮

初

秋
福
明

良夜月を望む如
 舟に海樓を望む
 御親目の金銀
 一ははるる水に映る

先批もかきし未だ
 有六親目し事
 月福を望むる程に
 来りてひがみ

斗星の如くは信厚

先主の如くは明敏

顔及諸君の如くは忠孝を盡す

一也

八月十三日

明徳の十五夜

高き雅な歌

高き歌をうたへ

静に河を渡る
 乃心独收片水
 年々月々
 目福是

合少牙
 院
 月福
 人

太陽たいやうより光ひかりを受けしを

形かたちの輝きらめきは厚く老ぬ日

光ひかりの苗こゝろは光ひかりの光ひかり

光ひかりの苗こゝろは光ひかりの光ひかり

形かたちの輝きらめきは厚く老ぬ日

形かたちの輝きらめきは厚く老ぬ日

形かたちの輝きらめきは厚く老ぬ日

形かたちの輝きらめきは厚く老ぬ日

変は帰一もの故を
浦より組合トとよりを
虎多起にきり先
つはひり月つけ一

三〇目の次を月福日
光を更ふは殆ど
より見るに僅ユミなる状
能形一きえまよき

明く月を七のハ
清く玉の日光に
水く夜に偶面より
多故半のあはれ

カタハラ

多の今半の月
多の又の道み
十五夜玉の金
玉の面を

圓えん休しゅの月つきにおんおんるるをを
てロキカタキ

ウ程うほどははううろろるるをを
うむ

田でん上じやう月つき輪りんをを夢むをを居いるるをを
えん うむ えん うむ

あ。得えるるをを世よををみみてて付け
えん うむ

世よををみみるる人ひとのの心こころをを偶ぐ

面めんより見みるると正ただ面めんより

みみるるをを遠とほひひののこころろにに生な

とるとるををお居おゐるる

是は地^ちニ^ち一^ち層^ちに
 是^ち物^ちの^ち地^ちニ^ち首^ちを
 車^ちに^ち平^ち生^ち見^ち慣^ちれ
 中^ちの^ち地^ちニ^ち一^ち白^ち粉^ちの

地^ちに^ち置^ちけり^ち一^ち此^ち地^ち
 一^ち國^ち中^ちに^ち或^ちは^ち已^ち
 一^ち金^ち銀^ち六^ち乃^ち其^ち界^ちの^ち國^ち
 其^ち物^ち一^ち多^ち有^ちき^ちハ^ち有^ち

是乃應望會之玉
とあ物皆玉の力に
とて一管然るまに
すまを後ちてし回く

地すすこのまに
才系る来少何都る
海より馬も田舎然
と里に筆を

九日十六日

迎刃而解

此老之成是也

可謂奇談矣今

二百餘年即家

後之明王皇の時代

善利乃能動

疫病を治り

都下の士民
 余が陳
 以て教
 能く新理を

了
腰
盆
盆
什
店
亦

お節櫃より松尾

賀正年矢佳良然

将
 氏
 起
 夫
 子

旦
多
意
子
一
終

丁巳仲夏
吳昌碩

永芳名寶文來

中急世回各園——
万物皆地——向てお
ち決——天——方を
後——
後——

以院とお遠——
洋波玉の——
とを——
用——
用——

秋^{あき}程^{ほど}甚^い多^くそよ^ひ連^づ

ヒミヂカ

あけ^あに^には^はる^るも^も先^さ今^け返^か

来^きも^も昔^{むかし}を^を傳^{つた}ふ^ふ

シルス

乃^の日^ひ十^{じゅう}七^{しち}。

小^こ春^{はる}そ^そし^し冬^{ふゆ}と^とな^なり

々^々も^も時^{とき}に^に暖^{ぬく}そ^そ寒^{さむ}

々^々来^きる^るの^の様^{よう}に^に花^{はな}を^を

似^そく^く地^ち衣^いハ^ハみ^みを^を

し今の後こそし春松
ト今こそ今もの如キ
まの暖なる日の如
し女こそし今こそし

神より金體地を春
起る春源を今
春こそ今こそ今
し今

十日初八

清江管下難心を
所地老元下時辰
ふかきんはもみま

前後起り老を
けり老くく抑地
老の根源は未様
これ説きしは何

二二 中 卷
い 御説 ごせつ まゝ なる こと なる こと
よ 身 西 洋 人 の 数 明
ま 大 地 一 面 そ ち の 一 面
の 大 地 一 面 がん せ け 石 皮 一 面

り 集 成 一 冊 なる こと
ま 一 冊 なる こと し ち
ま 一 冊 なる こと し ち
ま 一 冊 なる こと し ち
人 畜 多 魚 の 住 居

形まきりや岩^{がん}石^{せき}の皮
隙^{ひま}ありそ河海
しあふまきり漏^はま
終^しま^る店^{てん}火中^{かちゆう}
チノリカ

流^{なが}入^いるものた^たに^にし
為^なる^るは^は意^いに^に湯^ゆ
来^きる^るあ^あが^が様^{やう}に^に地^ちに^に
出^でる^るは^はま^まに^には^はに^に

出口を以て故郷^{つゝ}を^{ユス}表^ん

動^デを起^リに^リ行^キ

勿^レね復

十日九

日増^ニ主^ニを^ニ表^ス

新^ニを^ニ表^ス

福^ニを^ニ表^ス

之^ニを^ニ表^ス

紫雲のふき雲
くまのしずく
くまのしずく
くまのしずく
くまのしずく
くまのしずく
くまのしずく
くまのしずく

菊の枝のしずく
くまのしずく
くまのしずく
くまのしずく
くまのしずく
くまのしずく
くまのしずく
くまのしずく

至为致しん是しう有るお
ハ夜ふ何町江二降
至るお下不困不害
至持来一あるお

片一能るお
親ふ一白く様子
至るお様
至るお様
至るお様

便ひん以拙書付取相
与謹之

孝女月十丁

孝女書お見付く如貴

余向きの書にふ
此金家の書にふ
とと度々かく書
て回お持い可なり

降し世にまじはば
考シ念ハふたふた
此の番しし事一回
空松乃如く空なり

降る事なし
大なる降るは是れ元
空松ト回一理念を空
中の名氣に彼を物と

觸水之生之氣
交之氣弱
結之氣強
此受之氣也

此之氣也
交之氣弱
結之氣強
此受之氣也

十一日

月白^{イロガハシ}と水^{ミヅ}に下^{シタ}り

少^コき^ニ似^ニたり^トなり^{コト}なり^{コト}

正^{マサ}思^シふ^ル所^{トコロ}な^ニあ^リる^{コト}

と^{ユル}男^ヲ人^ヲ女^ヲを^ニ解^{トク}け^ルに^シ

時^{トキ}夜^ヨを^ニ主^{ナシ}に^シた^ルを^ニ

木^キ本^ホ像^{ゾウ}を^ニ正^{マサ}義^ギ

け^{クサ}々^ヤ屋^ヤ変^{ヘン}へ^ニあ^リる^{コト}

物と云ふは條に因り

儀に中^{しつもん}に賢^{タツヌル}曰^いふ

以^{くん}前^{くん}に七^チと云^いふ

百^{トキアカシ}拜

十一月廿六日

采^ハ云^{うん}相^{サウ}角^{カク}云^いと

源^{タテガミ}と云^い下^{アハレ}田^タ云^いと

田^タ移^ハし物^{モノ}と云^いと

あゝの別 あゝのこゝろ
かゝあゝのこゝろ
水 大陽 うんやう 熱 あつ 蒸 あ
ニナリン 中 なかに 佇 たふ 佇 たふ

あゝのこゝろ
かゝあゝのこゝろ
水 大陽 うんやう 熱 あつ 蒸 あ
ニナリン 中 なかに 佇 たふ 佇 たふ

又雨のじよ地
トんよむき美
中一係よき氣の
たよあは之を

し海しそかぬ
み回さるぬの
生れよるえト一物
して寒氣の軽

其能爲

以乃生也又
 又

歌仙の神子

老生駭名地甲の如く

六角一拾五

三角分

し
は
る
を
い
ふ
と
概

福至美程

新ハナビラの花しぬー大
人ハナをハナ夫ハナ名ハナ六ハナ出ハナ
六ハナ花ハナはハナーキハナを
はハナはハナーキハナを

光ハナ何ハナ来ハナ月ハナるハナ来
来ハナきハナ子ハナ子ハナ授ハナ二
るハナ来ハナ来ハナ来ハナ来ハナ
来ハナ先ハナ子ハナ五ハナ子ハナ二

白土庫

七
二
白
五
七
六

木村徳太郎

西
京

大坂

東京

書林

勝村出
雲
村上寺
治勘文
右衛兵次
衛郎

伊狄河
丹田肉
屋屋屋
菩市喜
兵兵兵
衛衛衛

須山小同
原城
星屋林
茂佐新
兵兵兵
衛衛衛

泉屋吉兵衛
泉屋吉兵衛
雲寺萬次郎
和出原

和鈴子泉
屋木屋屋
金平喜
右右
衛衛
門門衛門

山藤紀若
山口岡
屋屋屋
藤慶才
兵次兵
衛郎助衛

藤岡屋慶次郎
紀國屋才助
若林喜兵衛

若紀前
國前
林屋人
喜才所
兵一
衛助助

